

リニア残土を[くぼ地]と偽って[谷]へ埋めるな [谷]には水が流れ 災害が発生する場所だ

現在、JR東海は 谷を [くぼ地] と偽って 各地で谷を埋めようとしている。
水が流れ、水で掘りこまれていくのが谷だ。谷の下流域には集落がある。
信州の下伊那 豊丘村のおぞの小園集落では、直上の谷を埋めようとした
JR東海の計画を中止させた。その経過を報告します。

下流域の住民が知らないうちに！

～上流の谷をトンネル残土で埋める計画が進んでいた 下伊那郡豊丘村おぞの小園地区～

残土を運ぶダンプの往来による生活環境への影響は どの自治体でも悩みの種

『谷(たに)に上部(じょうぶ)への運搬が最適』豊丘村村長の2014年の議会答弁
豊丘村内工事で発生するトンネル残土は坑口1ヶ所、非常口2箇所を併せて225万m³

谷筋の上流住民からの要望だった！

谷を埋めて道を作れば、足元の土砂崩れの心配が解消、往来が便利に。平らな土地ができる。

リニアのルート発表直後の2013年の秋、上流の自治会からの要望を受け、村は他の2箇所を併せ3箇所
の発生土置場候補地を県へ報告した。

多くの住民が知ったのは2016年1月18・19日 JR東海による埋立概要説明会

二つの沢に延長1km、最も深い所で23m、合計50万m³の土を埋める。

県の基準で工事します。工事完了後は地主にお返します。その後の管理は地主の責任で。

2月末 計画地区内の上流下流の全戸にチラシを配布

昭和36年の水害で死者が出た二つの沢は幾つもの砂防えん堤により現在の流れは安定している。

上流で荒れた印象が持たれるのは繁茂した竹林に依る所が大きい。

説明会の概要と谷の現状、谷を埋めることの危険性を地元有志がアピール

4月12日：谷を埋めることについて専門家による学習会を実施

リニアの賛否を問わず、想定外の強雨や地震の際の地区の安全を考える。50名参加。

4月14日：リニア残土NO！小園の会発足(呼びかけ人9名)…この日に熊本地震が起きた
候補地取り下げとJR東海による発生土置場設計中止を要望。署名を呼びかける。

10日間で下流域の住民560名の7割に及ぶ391名の署名が集まる

4月末から村長と非公式に話し合い、村長がJR東海に候補地除外を申し入れる。

6月9日：JR東海は、一部地権者の同意を得られないため…として計画を断念

背景には周辺住民の反対の声が影響していることは明らかに。

リニア 課題共有図る

沿線自治体・JR・県飯田で会合

住民への情報提供求める意見

リニア新時代

長、県の水間武樹リニア整備推進局長ら約30人が出席した。

リニア中央新幹線建設工事を巡り、沿線自治体などの首長、JR東海、県が意見交換する会合が13日、県飯田合同庁舎（飯田市）であった。各自治体が抱える個別課題などについて緊密な情報共有を図る目的で、県の呼び掛けで初めて開催。地元住民へより詳しく情報を提供しよう求める声などがあつたという。

会合は非公開で行われ、飯田下伊那地方を中心とした10市町村の他、JRの沢田尚夫・中央新幹線建設部担当部長、県の水間武樹リニア整備推進局長ら約30人が出席した。

リニア処分地「白紙」に

長野・豊丘村 猛反発にJR東海

リニア中央新幹線の建設工事で発生する大量の残土処分候補地について、長野県豊丘村で7割を超える下流域住民の反対署名と地権者の反対によって、JR東海は「白紙撤回」せざるを得なくなり、今月8日、村や地権者

出席者によると、リニア建設工事で出る大量の残土処分などが議題。反対運動が広がる豊丘村で地権者の同意を得るのが困難として同社が村内の候補地での埋め立てを断念したことも踏まえ、自治体がそれぞれ担う役割について現状認識を話し合った。

ほかに、工事スケジュールの遅れの理由や見直しについて地元住民へのより丁寧な説明を求める意見などがあつた。ある首長は「工程が遅れている理由の説明が自治体側にもない」と不満を漏らした。また、同社は今夏にも本体工事を始める大鹿村の工事説明

地集落。うっそうとした森林地帯の広大な二つの沢筋を、高さ約20メートルの盛り土で埋め立てるといふものでした。2日間にわたるJRの説明会では、怒りの声が出ました。「もし、流出した時には、誰が責任をとるのか？」と問いただした栗沢左門さんは、元県林務課職員。処分地候補地内に私有地を持つ地権者の一人です。「何かあったら、小園地区が『一発』でやられる。いくらなんでも

ひど過ぎると思った」と、説明会の目を振り返ります。住民の関心は高く、地域有志が開いた学習会（4月12日）では、リニア計画賛否にかかわらず、「なぜ村長は、県に候補地として挙げたのか」「署名をとったら」と議論沸騰しました。

ほとんどなくして、「リニア残土NO！ 小園の会」が発足して、「村長は、処分地の申請取り下げを」と署名が始まると、他県での地滑り

災害は、人ごとでは無い」などと心配する声も寄せられ、次々に署名賛同者が増え、最終的には、住民の約7割（387人、世帯数の約8割）にも達しました。住民の署名を前に、下平喜隆村長は「JRに申し入れる」としたものの「県への申請を」取り下げない（4月28日）姿勢をとったため、小園の会は5月31日付で「取り下げを求めるとして」を議会に提出しました。今月21日開かれた最終本会

議では、議長を除く13人中、賛成反対が同数の6人、棄権1人となり議長裁決で不採択でしたが、先立つ13日、議会リニア特別委員会では採択となっていました。

日本共産党村議団は、「本会議での不採択は、議会のあり方が問われる問題だ。しかし、源道地候補地について、JRが『白紙』にした事実が変わらず、住民運動の大きな成果といえる」と語っています。

しんぶん赤旗
2016. 6. 29 (13)